

日本学術会議:持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023 に登壇しました (2023/9/8)

テーマ: 壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革
会場: 日本学術会議講堂 (東京)

2023年9月7、8日に開催された、日本学術会議主催、防災減災連携研究ハブ・防災科学技術研究所が共催する、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2023 (持続会議)「壊滅的災害に対してレジリエントで持続可能な社会への変革」に、江川新一教授 (災害医療国際協力学分野) がハイレベルセッションのモデレータとして登壇しました。

この持続会議は関東大震災から100年にあたり、国のあり方に大きな変化を与えるような壊滅的災害が生じて、それを乗り越え、よりよく復興できる社会へと変容できる力 (レジリエンス) を社会全体が蓄えることができるようにするために、10年以上前から構想されたものです。基調講演で壊滅的災害に対するレジリエンスの考え方が紹介され、テーマ1「壊滅的災害の経験と変革」では、①関東大震災とそこからの復興、②壊滅的災害と国際協力、が取り上げられ、テーマ2「壊滅的災害を乗り越える道筋」では、①将来推定が示す壊滅的災害、②壊滅的災害を乗り越える社会への変革一何を守り、どのように復旧・復興するか、③社会変革を支える科学技術、について国内外から発表とパネルディスカッションが行われました。ついで、各セッションで話し合われた内容をもとに東京ステートメント 2023 の草案が議論され、持続会議の準備期間中に開催された若手・中堅研究者による議論も紹介されました。それらを踏まえてハイレベルセッションが開催されました。小池百合子東京都知事のビデオメッセージでは、首都圏直下型地震に備えた東京強靱化プロジェクトが進行中であることが紹介されました。テドロス・アダノム (Tedros Adhanom Aghebreyesus) WHO 事務局長のビデオメッセージでは、人々の健康を中心に据えオールハザード・アプローチ、コミュニティとともに実装する防災などが強調されました。リディア・アーサー・プリト (Lidia Brito) UNESCO 事務局長補、水鳥真美 UNDRR 特別代表、韓群力 (Han Qunli) IRDR IPO 事務局長による報告と総合討論が行われました。幅広い観点から気候変動も念頭に経済・社会・環境の状況に沿って経験と知識を共有し、早期警報と災害コミュニケーション、社会の変革、災害前投資、若者と支援を必要とする方々の empowerment、国際的な協力と支援の重要性が提起されました。総合討論は、災害文化を醸成するにはどうしたらよいかという点に焦点をあて、教育・コミュニケーションの重要性とともに防災文化は物語として最終的には語られていく必要があることが強調されました。ハイレベルセッションで、東京ステートメント 2023 の方向性について合意が得られ、組織委員会によって最終的な文章がまとめられることとなりました。

文責: 江川新一 (災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野)